



日二新聞

定價一匁

第四輯



西垣文庫 特
文庫10
7357
1



特 文庫10
7357
1

新聞才四輯

慶應四年辰閏四月廿八日出板

西垣文庫



○奧羽諸侯歎願書

討會先鋒被仰付兩國共出兵在既仙臺先手勢及接
戰以処今般降伏謝罪之美容保家來也付仙臺國
境於陳門問罪督責為汝小伏見暴動一舉ハ畢竟指
揮不行届全卒然ニお發奉驚天聽以段至極恐縮
以存容保美ハ眼邑退隱之正當時於城外恭順謹慎古老
頗先非悔悟在寬大之西所置成下以松別紙歎願各
通家來也如人百天朝之西仁德奉感戴以松也

一四輯

處置奉仰望以會津國情ホシメハ委細演説を以テ上以
通り、リ、此の間深ク汲量寛典ニ由沙汰ニ成下、ト、柘一同
奉懇願以上

壬四月十一日

仙臺中將

米沢中將

此度會津征伐ニ仰付各藩出兵既ニ仙臺先手勢接戦仕
ル、処容保家来テ降伏謝罪シ、又ハ全異心ホ有之筋ニ至
無、由、存、ハ、一、ト、卒、然、ニ、お、發、奉、驚、天、聽、以、段、深、恐、入、生

節ニ先手隊長ホハ別而謹慎ニ付置奉待、由沙汰如何
柘トシ、処置仕由ニ、ホ、至、ル、ホ、必、竟、容、保、兼、テ、指、揮、不、行
届之所致ニ有之、ト、至、極、恐、縮、仕、當、時、於、城、外、恭、順、謹、慎、ト、
ホ、先、非、悔、悟、存、在、家、来、共、歎、願、昏、々、以、テ、降、伏、謝、罪、仕、由、
上ハ幾重ニ寛大ニ由、処置ニ成下至仁之、聖恩奉戴
以、柘、奉、仰、望、以、尤、當、時、王、政、由、一、新、由、場、合、ニ、由、為、互
ト、ハ、何、分、不、被、為、動、干、戈、人、心、向、背、ト、深、可、被、為、在
由、汲、量、由、時、節、ト、存、在、勿、論、春、夏、由、百、ハ、農、時、ニ、甚、急、務
ニ、由、多、ル、由、自、然、民、命、由、大、ニ、関、係、在、由、所、由、由、由、
以、間、是、等、由、矣、由、焉、ト、沛、諒、察、以、成、下、今、日、由、事、ハ、只、

會津孤國耳也。処置不被為。思召寛大之沙汰。成
 下り、實以奥羽御鎮撫之道。赫然ト立以振偏
 存。込列藩衆議。志奉懇願。以猶亦連名外之輩ハ駟付
 次才可奉申上。以恐惶謹言。

慶応四年閏四月

伊達陸奥守家来

坂其 力

但木 土佐

上杉弾正大阿家来 千坂太郎左門

南部美濃守家来 竹俣 美作

野々村真澄

丹羽左京大夫家来 丹羽 一學

松平大孝頭家来 三浦平八郎

阿部美濃守家来 平田源左門

相馬困階守家来 相馬 靱負

秋田万之助家来 佐藤勘兵衛

小野真次郎家来 大浦 帶刀

藤井伊豆守家来 水野三郎左門

田村右京大夫家来 渡邊五郎左門

生駒大内藏家来 佐藤長大夫

椎川嘉藤太

慶応四年四月

會津家老

西郷 頼母

梶原 平馬

一瀬 要人

○當正月大君東畷の折或陸軍士官建白各

今度大坂の一敗関東の恥辱を天下に示し佐幕の諸藩

に驚愕切齒無二の義憤却る

大君の所置を罵る外の座をくは右敗軍の基は陸

軍の命令不出一途愚昧の閣参兼賛吏異議を唱え兵畧

迂遠ある將帥号令を弄し以て出候に其罪言

語同断の所生の抑人君賢明ありしも果断なきは

事を処するに迷を生じ必大事を誤の患あり又人君下

問をつくし諫を容るるを良し然れども我の果断の

胆畧あるも此の其詮なきのそとけり却て疑を醸すの

基とせりし語曰為大事者不謀衆實は是英傑の語也

今大君賢明にして下問を尽し玉小事實に於微臣

亦難有義に奉存に唯その英断の薄く在らせらるるを

深嘆息仕以此上西再奉會猶之耻を雪ぎ給ふに即日

不殘閣参を廢し無智の將帥を退け賛負を省き亟に

人材を抜抽ひきだし全権ぜんけんの委任いにし外良策無なく但たゞ右之
 大御おほみ変革へんかく被まかし行なはさし衆人しゆじんに謀ま被まかし遊あそば様さまとしハ
 逆さかも難がた成なは間ま非常ひじょうに独断どくたんを以もつ人心じんしん奮起ふんき万機ばんき一新いん大
 業おほわざ中興ちゆうきゆうを為なは在あはは不憚ふたん忌諱きご啼泣ていせき奉ほう懇願こんがんに誓首ちきう百拜ひやくばい

臣 純彰 純彰

旧ふるきを去さり新あらたしめし本意ほんいをわすれし文ぶん他たに
 漏もれぬ事ことハ今いまあらざる事ことハ看官かんくわんの見聞けんもんを傳つたへ
 りんりん新あらたくハ旧ふるきを去さりし事ことハ答こたへぬ事ことハ